

## 今や現場に欠かせない輝く女性たち 彼女たちの活躍が技術者不足解消の鍵

今、優先するべきことは、社員の健康と組織の活性化

——コロナ禍、頻発する自然災害など激変する社会で、御社として今、何を大切にすべきだとお考えですか。

やはり社員の健康が第一。会社全体として健康経営を目指しています。自然災害に対しては、防災・減災対策を今一度見直し、国土強靱化を更に進めるべきでしょう。弊社のニューマチックケーソン工法・泥土加圧シールド工法の画期的な両工法による、地下河川や地下貯留施設の整備は、都市型水害に対する最も有効な手段の一つであり、これからも命を守るインフラ整備で社会に役立てる自負があります。

——土木といえば「ドボジョ」「建設

小町」の愛称があるほど業界への女性進出、活躍が目立ってきています。御社の女性登用の状況を教えてください。

技術系の女性社員は30名、半分以上が20代です。登用については男女関係なく、目的意識があるか、柔軟な発想ができるか、この2つがポイントです。目的意識があれば積極的になれますし、

仕事へのやりがいも得られる。柔軟な発想は協調性やコミュニケーション力にもつながります。また、以前より年齢や階層に応じた研修や実務教育、資格取得支援も積極的に行っています。

——採用基盤の変化はありましたか。かつては、ワンルームタイプの女子寮が完備されていなかったのが、自宅通勤できる女性採用が主でした。しかし総合職採用基準により近年、職種を

働きやすさがやる気を引き出し、業界全体を活性化させていく

——働きやすい環境のための制度や工夫を教えてください。

まず、自由に意見が言える風通しの良さを大切にしています。その上で、育児休業制度の活用（時短勤務・時差勤務・時間単位で取得可能な看護休暇）を設け柔軟に対応しています。また、部下育成は上司の最大の仕事と認識し、管理職には部下の能力を伸ばし、やりがいを持てるような業務分担に取り組

んでもらっています。

——職場内での女性のハンデはありますか。

更衣室やトイレなどの設備環境は整っていますし、体力的なハンデはないといっています。今は知識で勝負していく時代。女性が対応できる業務はたくさんあると思います。

——今後、女性に期待することは。

かつて建設業界は男性中心で、3K（きつい・汚い・危険）などのマイナスイメージが強かった。今では建設現場でイキイキと活躍している女性の姿



おおたにけんいち  
大隅健一さん

大隅建設株式会社 代表取締役執行役員社長。経営理念「顧客第一」「創造と開拓」「共生」「自己責任」を具現化し、社員にとって夢のある会社であり続けることを目指す。特に人材育成と女性の感性を活かした組織の活性化に力を入れており、「信頼に応える確かな技術（技術の大豊）」の体制づくりに力を注ぐ



問わず「現場で仕事をしたい」「現場監督をやりたい」「海外で働きたい」など目的意識が明確で意欲もあり、キャリアアップを目指す女性が増えてきました。ジョブローテーションにより、さらなるスキルアップにつながり、支店ごとの異なる雰囲気を知ることにも良い経験になる。転勤や異動に限らず、目的意識や意欲があれば仕事は充実します。



を頼もしく感じます。建設業界では技術者不足が大きな課題ですが、頻発する自然災害や老朽化するインフラ整備に対応するため、そして国の基幹産業である建設業界を元気にするために女性の活躍に期待しています。弊社でも今まで以上に女性のやる気をフォロワーしていくつもりです。

「社員にとって夢のある会社」であり続けるために、一人ひとりの働きがい、寄り添い、社会に貢献する100年企業を目指していきます。



菅野伸子さん

東京建築支店第3設計課長。入社時は秘書課に配属。マナーや言葉遣い、役員対応を学び、希望して建築設計へ配置異動。猛勉強の末1級建築士取得。「夢がかなう会社」としての社内キャリアチェンジの先駆的存在。2019年グッドデザイン賞受賞

## 社内制度や環境をフル活用する 女性技術者の活躍に期待したい

——菅野さんが設計士を志したきっかけを教えてください。

設計の勉強がしたくて大学で建築を学んだのですが、その始まりは子どもの頃です。当時は姉と一緒に部屋で、どうしたら広く使えるか、プライベートの確保、模様替えはどうしようかなどを考えていました。まさに設計です。模様替えは私が主導権を握り、「こう

すると使いやすいよね」と言いながら実行。それなりに共有できていたのでも姉も満足していたと思います。

——好きなことが仕事になりました。現在の仕事の内容を教えてください。

共同住宅や工場、物流倉庫などの設計、設計監理をしています。事業主の要望を反映して設計し、品質や工法を確認しながら進めます。設備や構造設

計者との調整、コスト・品質管理なども同時に行っています。事業主は多忙な方が多いので、こまめな連絡や迅速なレスポンスをモットーに、喜ばれる納得いただける信頼関係の構築も重視しています。また管理職でもあるので、メンバーには仕事の優先順位を明確に伝えて円滑な業務進行に努めています。

時短勤務や育休制度活用で、スキルは無駄にならない

——男性が多い建設業界の中、女性技術者として思うことはありますか。

建設現場の作業員は圧倒的に男性です。しかし一方で、女性の活躍も増えていると実感しています。あるプロジェクトでは、事業主と品質管理者、設計士すべてが女性だったこともありま。弊社の現場では、女性専用の更衣室やトイレなど諸設備も充実しているので、働きやすいと思います。また、時短勤務制度は多くの子育て中の女性が活用しています。育児休業制度が充

実しているので退職せずに、復帰後もスキルを活かして働いている女性も多です。最近のコロナ禍では、在宅勤務も推奨されています。インターネット環境があれば会社のサーバーにアクセスできるので、時間を有効活用しています。

——仕事とプライベートを両立されていますが、工夫されていることがあれば教えてください。

休日は、プライベートの時間を大切にしたいので、できるだけ家族と過ごすようにしています。でも外出先で気になったデザインや建物があれば、つい撮影をしてしまいますね。悩みや問題を考えながら散歩をしていると、ふと解決策が出てくることもあったりして。良い気分転換になっています。今のコロナ禍、自宅では娘と一緒にテレビを見ながら笑ったり、話したり、時には私の仕事のことも伝えたりします。

——娘さんは設計の仕事に興味を持っているようですか。

娘が保育園児の時、ブロックで遊ぶのが好きで、「将来の夢はものを作る仕事」と書いていたのを見て、私自身が嬉しかったのを覚えています。数年前、グッドデザイン賞受賞の新聞記事を見せたら「コレ、お母さん？すごいいね！」と驚き、喜んでくれました。娘が設計に興味があるかどうかはまだわかりません。でも、将来選んだ仕事に設計に関わる仕事だと嬉しいですね。働きやすい環境のもと、女性ももっと活躍できるはず

——グッドデザイン賞受賞時のことを教えてください。

都内のハイグレードマンション（集合住宅）で、2019年に受賞しました。複雑な建物で、外観にも石やガラス、タイルの三つの材料を使った、難しくて大変苦労した設計デザインでした。受賞を聞いた時は驚くと同時に嬉しかったし、社内でも喜んでもらえました。実は、受賞した建物に隣接する

別のマンションも自分の設計案件で、その土地にご縁があったのかなあと感じています。

——女性が増えつつある建設業界。期待することを教えてください。

現在、私の部署では設計職が男女各2名の4名。男女の分け隔てなく、平等に仕事をさせていたいただいています。そして設計に限らず、他の技術職でも女性の活躍がますます増えていくと確信しています。そう思えるのは、弊社の働きやすい環境や待遇、支援があるから。私もその環境の中でさらに活躍していきたいです。



グッドデザイン賞受賞の物件。石材による重厚感と、ガラス強りの洗練された開放的なデザインが特徴

# 建設現場で輝く女性たち!

「建設現場は男社会」という時代は過去のもの。女性専用の休憩室や更衣室、また女性専用トイレを設けるなど、近年女性が働きやすい環境づくりが整備されている。子育てをしながら仕事に取り組む女性社員のために勤務体制を柔軟に対応させており、ワンルームタイプ的女子寮を用意するなど女性が活躍できるフィールドを作った大豊建設。現場の声に耳を傾けた。

聞き手◎『中央公論』編集長 吉山一輝

女性も働きやすい土木の現場には、技術者だからこそ得られる感動がある

——長田さんは、建設現場に出るようになって1年目とお聞きしました。

大豊建設に入社して5年間は内勤で設計に携わり、今年から現場へ。現在、国内最大級の石巻中央排水ポンプ場（沈砂池ポンプ棟Ⅱニューマチックケーソン部分・長さ89・7m×最大幅41・25m×高さ39m）で土木技術者として施工管理を行っています。内勤時にも経験したことが、図面上の構造物が、現場では想像を超えるスケールの大きさに驚きました。

——仕事の内容を教えてください。

石巻市では2011年3月の東日本大震災による地盤沈下で雨水排水能力が低下したため、多数のポンプ場を施工しており、その一つの現場に携わっています。具体的には、コンクリート打設や仮設工事施工の現場指示、調整、

数量確認など、安全第一で工事を進めています。震災復興事業の一環で完成はまだ先ですが、社会の役に立つ仕事をしているという責任と誇りを感じています。

——現場では男性が大半ですが、女性として働く環境はいかがでしょう。

弊社の現場事務所内には、女性用更衣室やトイレが完備されているので快適です。男性作業員の方々も何かと気を遣ってくれます。上司も男女分け隔てなく接してくれますので、楽しく仕事ができています。

——大豊建設を選んだ理由を教えてください。

大学では都市環境学科に進学。環境、という言葉に惹かれていたのですが、やることといえば「土木」。土木はどんな仕事なのか、就職先はどこかを考えた時、選択肢にゼネコンがありました。父親もゼネコン勤務だったので、抵抗はあまりありませんでした。子供の頃、よくドライブで行った東京

湾アクアライン上の「海ほたるパークングエリア」を通るたびに、父からトンネルの話や、土木に関する話を聞いていましたから、ゼネコンや土木工事を身近に感じていたのです。もしかして、父の刷り込みだったのかも。でもそれ以上に弊社の雰囲気も良かったし、ニューマチックケーソン技術で知られる「技術の大豊」ですから、国内外さまざまな土木工事の魅力で、弊社への就職を決めました。

——土木技術者として、ニューマチックケーソン工法の凄さをどのように感じていますか。

コップを逆さにして水中へ平らに押し込むと、空気圧により水の侵入を防



おまごみ  
長田裕美さん

本社土木技術部設計課に配属され、現在石巻中央排水ポンプ場に土木技術者として勤務。大豊建設の得意工法である、国内最大級のニューマチックケーソン工事で奮闘している女性土木技術者

ぐことができるという原理を応用した工法で、橋梁やダム基礎、シールド工事立坑、地下構造物に幅広く用いられています。地上と地下20〜30m、それぞれの作業を同時進行できる高度かつ便利な技術です。しかも、地下作業は基本的に遠隔操作なので体への負担もありません。以前、地下36mでの無人の掘削作業を見学しましたが、凄いの一言。貴重な経験になりました。

——土木工事でどんな時に感動を覚えますか。

「建設現場は怖いところ」と思っている女性はいくつかもありません。でも怖くないし、私は楽しいです。現場には驚きも感動もあります。ですから、

男女問わず土木に興味を持っていただきたいし、会社にもっと女性の土木技術者が増えてほしいです。

——仕事とプライベート、過ごし方に工夫はありますか。

私は、仕事とプライベートはしっかり分けるタイプです。平日はいかに早く効率よく進められるかを念頭に、「今日はここまで！」と明確に決めて仕事をしています。弊社では休日・休暇をしっかり取れますし、石巻に来てからは気分転換のドライブを満喫しています。

——女性土木技術者のパイオニアとして、今後の目標を教えてください。

土木現場はまだまだ女性が少ない。だから、パイオニアとしての自分の働き方や環境を発信していかなければ、女性が働く可能性は広がっていかないと考えています。現場での楽しさや充実感を他の女性技術者とともに広く発信しながら、男性中心社会だった建設の現場を変えていきたいですね。